泉南市における教育・保育を語る会発言要旨

平成16年6月5日（土）18：00～20：00
場所　一丘小学校体育館

〔参加者〕

一般参加　保育所保護者1名　小学校保護者3名　学校関係職員13名　一般市民９名

審議委員　高田　鍋島　若林　堀口武視　南　夏川　河野　阪上　石野　片野　小路　井上
奥井　西浦

事 務 局　飯田　馬野　太田　宮崎　佐野　小林　衣笠　小合　田中　（中脇）

就学前教育に関すること

【子育て支援について】

保育所保護者　５月から1歳と4歳の子どもを保育園に預けている。
保育所や幼稚園にあがる前の子どもの育て方について。
妊娠中、保健センターの両親学級へ参加。出産後一人で子育てをしていたが、これではいけないと両親学級の時の友だちと行き来したり、公民館の子育て講座に参加したり。子育てサークルの活動もしてきた。子育てはしんどいと自覚することが大切。悩んでいると言える人はいい。孤独な育児になっていることに気づかず、悩みを抱えながら子育てをしている人がいる。子どもに手をあげてしまったりする。いろいろな子どもを見ていたら、この子はこの子のペースでいいんだと思える。出てこない人、そういう場所があることを知らない人を、どう誘ったらいいか。

審議委員　４歳の子どもがいる。新家なので電車に乗って両親学級へ通った。その時の友だちの車で子育て講座にも参加できた。これがなかったら、ずっと一人だったかもしれない。講座の場所が遠い、参加人数の制限がある、というのはどうか。いつでも相談できる場が必要。

学校関係職員　幼稚園勤務。幼稚園の子育て支援の取組を紹介。一丘や新家地区は、中央から遠い。そこで一丘幼稚園では、週に1日集える日を作った。1日にしたのは「この日に行くんだ」というリズムをつくることとたくさん集まるように。地域の中に、歩いていける子育て支援の場を。それを幼稚園や保育所が担っている。ただし、専門にたずさわる職員がいないのが課題。

審議委員　子育て支援センター担当。今までの話を事業展開の参考にしたい。参加の呼びかけについては、チラシの置く場所等、工夫しているが、一番力になるのが、口コミで誘ってくれること。参加人数の制限については、職員数や場所のこともあるのでしかたがない。でも、必ず希望理由を聞くようにしている。「友だちがいない」と聞くと落とすわけにはいかず、2クラスにしたり、他の場所を借りたりして、職員もフル回転して対応している。支援センターの中だけでなく、いろいろな地域の公園や幼稚園、公的機関に出向くようにしている。もっと回数を多くという要望には、地域の民生委員さんに力を借り、今はいろいろなところで子育てサロンができてきた。お母さんたちの力はすごく、場所の提供だけで、最初はおしゃべりだけだが、だんだんといろいろな活動をするようになる。

一般市民　一丘地区の民生委員。福祉委員。10年前に老人集会場で育児相談を始めた。相談だけなので、だんだんと参加者が少なくなった。3年前、小地域ネットワーク事業のなかの一つ、子育て支援「よちよちサロン」を始めた。保健師が来て計測をしたり相談にのってくれたり、また、畳の部屋で子どもを遊ばせながら親同士が話し合えるようにした。「なんだ、うちの子だけじゃないんだ」「わたしだけでない」と気が楽になる。子どもも大勢の中で遊び、ケンカや引っ張り合いもあり、いい具合。50人ぐらいの親子が、つっかけ履き、ふだん着で集まれる場となっている。8月を除く第4火曜日に実施。

保育所保護者　私立の保育園に通わせている。病児保育がないのが働く親として困る。病気の回復期に預かってもらえるファミリーサポートセンターができればいいと思う。

【保育所・幼稚園について】

学校関係職員　幼稚園勤務。また、2歳と4歳の子どもを公立保育所に通わせている。
勤務する幼稚園は少人数で、一人ひとりを見られていいと思うが、自分の子どもは大人数の保育所で育っていて、外国籍の友だちの話を、目を輝かせて話してくれる。子どもと子どもが出会って育つことの大きさを感じる。子どもが育つ人数というのがあるのかなあと思う。ある程度の人数があって、いろいろな子どもが在籍していて、出会うことの意味がある。人とかかわる力をつけることが、就学前教育では一番大切なことである。

審議委員　うちの子どもも少人数の幼稚園に通っている。大勢の中は苦手でなじめないので公立を選んだ。よく見てくれありがたい。市内見学をすると大規模もあり、人数が多いと遊びがひろがると聞いて、それぞれのよさがある。しかし、私立が1つしかない、近くに公立がないなど、選択肢が少ないと感じる。

保育所保護者　私立の保育園に通わせている。よくしてもらいありがたい。保護者会がないのであればと思う。

学校関係職員　以前公立保育所の保護者会の役員をした。行事の時のおみやげを選んだり、お別れ会を企画したりした。働いているので会は夜にした。今もつながっている。

学校教育に関すること

【人権を大切にした教育を】

審議委員　小学校のPTA。小学3年生から18歳まで4人の男の子の母。
幼稚園のときに他府県から引っ越してきた子どものお母さんの悩みをきいた。子どもは、いい意味で話好き。悪くとらえると出しゃばり。その子に敵対心をもつ子が、家でその子にいじめられると話し、先生もそれをうのみにしている。子どもは、つらくても学校には行っているという。先生に話したらとアドバイスしたが、その後の子どもへの対応が心配という。

小学校保護者　小学校PTA。小学3年から成人まで幅広く3人の子どもがいる。
神戸の事件以来、青少年による凶悪な犯罪に胸を痛めている。PTAとして、安全対策に力を入れているが、私たちの子どもが大きくなって犯罪にかかわらないようにしなければとひしひし感じる。命の尊さ、心の痛み・体の痛みの分かる子にしたい。それは小学校だけでなくもっと、保育所、幼稚園、小さいころから、そして中学校、地域、大切なのは家庭で。大きな問

題であり、身近な問題である。

審議委員　子どもたちの人間関係について、子どもたちが居場所として学校をとらえているのかというとむずかしい状況になっている。子どもたちの力関係をきちんとあぶりだせているか。

【学校と他の機関との連携】

一般市民　一丘小学校の学童保育の指導員。今年度小学校は子育て支援サポート事業を受け、3名の支援サポーターが配置された。今までも学校との連携はしていたが、より深く、課題のある子どものことを話し合うことができ、学校とつないでくれている。

一般市民　福祉委員は世代間交流のため、学校に出入りすることが多い。民生委員もしているので、そのとき、気になる子どもについての話がしたいのだが、担任の先生は忙しそうでできない。今年度は支援サポーターの3名とゆっくり話ができる。

最近よく話をすることは、横のつながりがとれていないこと。大きな課題のある子どもについて、どこにどう情報を求めたらいいのか困っており、その家庭にかかわっている保健師やケースワーカーとつないだりした。保健センターや市役所のそれぞれの部署の横のつながりがないと感じる。

地域教育に関すること

【家庭・地域の教育力について】

審議委員　子育て支援センターのような、小学校の保護者も相談ができる場があればと思う。

一般市民　学童保育の指導員。子どもたちの様子をみていると、仲良くしているようでも、力で抑えられていることもある。保護者も、子どもが対等に付き合えているかよく見て欲しい。

小学校保護者　小学校と高校と大学の子どもがいる。

小学校の子に障害がある。保育所のときから、周りの子との人間関係に敏感になり、自分の子の位置を意識して見てきた。対等に遊べるようになったが、ひいてしまうこともある。障害のある子に対してというのではなく、どこにでも自分の思うように遊びを展開するボス的な子どもはいる。でも、仲が悪いのではなく、その子にもよさがある。上手に親が声かけしてかかわっていくうち、自分の子もだんだん自分の思いが言え、その子ともうまくかかわれるようになってきた。保育所のときから、先生たちも、カバーしすぎないで、周りの子が上手にフォローできるよう一歩ひいてみてくれ、大人の手が入りすぎず、子ども同士で解決するようにしてくれている。

地域の小学校なので、もっと親同士の交流ができるかと思ったが、連絡網が廃止され、横のつながりがとれない。遊ばせてもらったお礼のやりとりなど、親同士のつながりがもてたら、専門的な情報機関でなくても、子育てが変わってくるのでは。

審議委員　小学校勤務。保護者がつながりにくい状況になっていると感じる。深刻な問題として虐待があるが、関係機関のネットワークが組めているモデルも聞いている。本市もこれから早急に必要である。

勤務校では、懇談会や参観のような敷居の高いものでなく、子ども同士、親同士、親子のつながりをつくっていくよう、「一緒にチャレンジ」というPTA主催の行事を組んでいる。今年度も6月18日に6講座開催する。目標は、親も子も楽しんでやりきってもらうこと。そして出会い、つながりの場にしてもらうこと。

こういう実践を積み重ねていきたい。

一般市民　72歳。60歳のとき泉南市へ。びっくりしたのは、青少年が道の真ん中でたき火をし、小学生がこわがって通れない。みんなはだまって見ているだけ。自分以外の子にはだまる。なぜ？私は掃除用具を買い、こつこつきれいにした。あるときまたやって来た。「ええなあ、あんたら。でも片付けてや。」と声をかけたら片付けて帰った。私は駅からゴミを拾いながら家に帰る。みんな昔はそうだった。自分の家の前だけでなくまわりも掃除した。だから、地域はきれいだった。

ある日、中学生がうろうろしている。「学校は？」「朝ご飯は？」「かばんは？」と声をかけ、家に連れて帰ってご飯を食べさせた。ジュースも「外では缶のままでもいいけど、家ではコップで飲むんやで。」と出した。家の話もした。電話番号も聞き、その日は家庭にも連絡をした。

後日、友だちを連れて来て、「あんな、家ではジュースはコップに入れて飲むんやで。」と友達に教えている。ご飯を食べさせたりトランプをしたり。しばらくして、「学校に行ってみたら」と言うと「行く」という。学校に連絡してついて行った。

地域のみなさん、声をかけよう！自分の子を見てあげて！

その後、他市の学童保育の指導員に。

「ただいま」の知らない子。キャッチボールやトランプのできない子。「休みの日に〇〇へ行ってきた」と話をしてくれるのに。

おばあさんに育てられている子が、私が投げても届くよう、ドッチボールの枠の線を引きなおしてくれた。そんなやさしさにも触れる。

今は、お母さんやお父さんを育てる時代になった。どうか、子どもの教育の前に自分を磨いてほしい。

よみきかせのボランティアもしているが、そこで、正座、ごあいさつなど作法を教える。子どもたちは素直にきちんとできる。みんな、やりましょうよ！「つ」のつく年（九つ）までに規範を教えましょう。

一般市民　青少年センター、保育所、幼稚園、小学校などによみきかせに行っている。子どもたちは、だんだん集中力がついてきている。勉強にも影響が。いい習慣は身に付く。

年寄りが4分の1いると言われる時代に。年寄りを使ってください。学校をリタイアした人ももう一回教育の場にボランティアで戻りましょう。教え方が変わったとしても、後ろに立っているだけでもずいぶん違うと思う。声をかけてください。

また、学童保育は子どもたちのたての関係が育つ。一人っ子でも、お姉ちゃんお兄ちゃん、妹、弟ができる。利用してください。

小学校保護者　私も、大学生の子が小さいころは、近所の子にも注意できた。最近、公園で野球をしている子に注意をしたらきいてくれた。でも周りにいたお母さんに「自分の子に返ってきていじめられたりしたらいやだから注意できない。」と言われショックを受けた。そんなことを考えたことがなかった。どの子も言えば分かってくれると思ってきた。言われて、ふと、自分の子がいじ

められたらと不安にもなった。今の社会の、注意できない保護者の気持ちである。さびしい気もした。そのお母さんに何もフォローできなかったのがひっかかっている。

審議委員　本当に、知らない子に声をかけるの、ひいてしまう。

４月に安全パトロール員の腕章をもらった。家の近くの小学生が通るところに立ち、「おはよう」と声をかけている。だんだん子どものほうから声をかけてくれるようになって朝の30分間が楽しみ。よみきかせのボランティアで顔を覚えてくれた子もいる。このように1つでもつながれば、町の中が変わってくるのではないか。また、娘が中学校のとき学校が荒れ、保護者として学校に入った。必死で話しかけたり、行事を企画したりした。真剣かどうか、子どもたちは見抜き、受け止めてくれ、自信になった。